

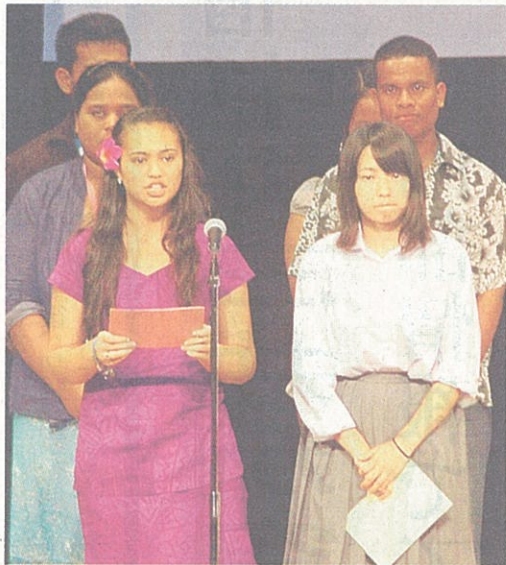
「高校生太平洋・島サミット」で、提言内容を説明する参加各国の高校生たち＝25日午後、宮古島市

太平洋・島サミット

水資源保存で立法を

高校生ら各国首脳に提言

【宮古島】高校生太平洋・島サミット3日目は25日、宮古島市のマティダ市民劇場で提言式が行われ、高校生らが各国首脳に対して、水に関する課題解決のために各国政府がすべきことなどを提言した。提言式には日本を含め15カ国1地域の首脳や政府関係者が出席した。



提言は、水資源の管理、国際協力、持続可能な発展のための教育、その他の問題の4項目について、参加した高校生がこれから実行する約束事と、各国政府がすべきことを記した。

水資源の管理については水道施設の改善のための予算増加や、宮古島市の地下水保全条例をヒントに「水を守る地域に関して水資源保存のための法律をつくる」と話した。

「国際的な協力に不可欠だ。私たちがたった一つの惑星に住んでいる」と締めくくった。

62人の高校生から8人が代表して提言を読み上げた。沖縄高専2年生の宮里春奈さん(16)は「とても良い経験。将来の糧になった」と話した。

首脳を代表して、クック諸島のヘンリー・プナ首相が「太平洋諸国の将来を担う若者がここにいると確信した。この若者たちが、将来各国のリーダーとしてまた日本にやってくることを確信している」とたたえた。

両首脳は、教育分野、海上輸送、海洋資源の利用についての日本との協力関係について意見を交わし、テラビ首相は「環境や気候変動の分野で日本の立場を支持し、協力を一層強化したい」と話した。

野田首相は、ツバルが異常気象の影響を受けやすいことに触れた上で、日本が供与した海水の淡水化装置がツバルの水不足問題の解決に貢献することに期待感を表明した。

26日は、トンガ王国、ソロモン諸島との首脳会談を予定している。

「島しょ国と連携」仲井真知事

第6回太平洋・島サミットに参加した仲井真弘多知事は25日夜、名護市のサ・プセナテラスで、「沖縄と共通の課題のある太平洋の島国と水やエネルギーなどの資源、環境で協力を可能にしていきたい」と述べ、島し



夕食会で主催者あいさつをする野田首相＝25日夜、名護市の万国津梁館

大震災支援に謝意

野田首相 あいさつ

第6回太平洋・島サミットは25日夜、名護市の万国津梁館で、野田佳彦首相夫妻主催の首脳晩餐会が開かれた。

野田首相は、昨年3月11日に起きた東日本大震災に触れ「未曾有の国難に襲われたが、各国からいただいた温かい励ましと支援は大いに支えになった。あらためて感謝を申し上げる」と謝意を示した。また「美しい名護の地で首脳の皆様と忌憚のない意見交換を行い、参加国の絆を深めていきたい」と述べた。

共同議長を務めるクック諸島のヘンリー・プナ首相は「これまでのサミットでの率直な対話は、太平洋諸国と地域レベルで人々の生活に前向きな効果を与える開発協力の優先事項を合意する機会となった」と述べ、26日の本会合への期待感を示した。

「島しょ国と連携」仲井真知事

第6回太平洋・島サミットに参加した仲井真弘多知事は25日夜、名護市のサ・プセナテラスで、「沖縄と共通の課題のある太平洋の島国と水やエネルギーなどの資源、環境で協力を可能にしていきたい」と述べ、島し

よ国との連携を強めていきたいとの意向を示した。また、太平洋地域との協力や国際会議などの開催で「日本の中の拠点にしてほしい」と要望した。